



「安部1強」内閣 政権末期か

「安倍1強」与党とすきま風

新型コロナ対策、検察庁法案で迷走

与党から相次ぐ安倍政権への不満

安藤裕氏 (与党として国民に安心感を持ってもらうことが何よりも大事。そのためには100兆円のお金を用意して、これだけ政府はしっかりとして用意している。という強いメッセージを出すべきだ(1日、記者会見で))

東田裕彦氏 (検察庁法案(正案)は争点があり、国民のコンセンサスは形成されていない。審議を急ぐことが重要であり、強行採決は自衛行為だ。強行採決なら退席する(13日、ツイッターで))

船田元氏 (内閣にとって都合の良い役職検察官の定年延長は認め、それ以外は認めない現象が生じる可能性が排除できない。強行的に議事を進めることは国民世論をないがしろにする所業だ(14日、ホームページで))

中谷元氏 (1月未だ黒川検事長の定年延長が突然、閣議決定で決まったというので、びっくりした。自民党の理解を得られない。自民党の中にグループがあって議論を隠している。今は異議、声があまり上げられない(18日、インターネット番組で))

公明幹部 (もう安倍さんが何言っても信用されなくなってきた。いくらか黒川さんとの関係とか、志意(しい)的人事とか否定しても信じてもらえない(18日、新聞に))

自民から異論公然「公明」「信用されぬ」
「安倍1強」政権を取り巻く党内の空気が変わってきた。新型コロナウイルス対策や、検察幹部の定年延長を巡る検察庁法案などの迷走に対し、自民党内から公然と異論を唱える声が増えている。これまでは批判や不満を抑え込んできたが、安倍首相の党総裁としての任期が1年以上残る中、「政権末期感」が強まってきていると見方

残り任期1年余 漂う政権末期感

Table with 2 columns: Year, Issue. Lists various legislative and administrative issues from 1951 to 2009.

道議会庁舎きょう「引退」
1951年から使われていた道議会議場が、新庁舎の完成に伴い12日、奉告期間の満了を迎え、全国から注目された。議事事務局に30人が目まぐるしく変化中。北海道の道議会議場は「道政の中心地」の99年間を振り返る。



バイオガス発電
十勝で存在感
【帯広】十勝管内が家畜ふん スプラントの全国最大の集積地を活用して発電するバイオガスプラントが土曜町(小型無人機使用、北政産史撮影)

管内に45基、全国の2割集積
管内19市町村が、国の「バイオマス産業都市」全国第1号に認定され、17基だったプラントは45基に増え、牧場の大規模化を支え、十勝の基幹産業である農業の生産性向上も関連産業の振興につながる。ただ、今後も数を増やすには送電網の増強が不可欠で、プラント建設を計画する事業者は行方を注視している。

農業の生産性が向上
地元関連企業も成長
「もう生産を続けられない」と悲鳴が上がっていた。現在はプラントで毎日1000頭のふん尿を処理でき、負担は軽減された。ふん尿から発生するガスは燃料となり、毎日6000千円程度の収入を得ている。6000千円のうち、残りは北海道電力へ売却し、残りは北海電力へ売却する。道産のバイオガスプラント事業に参入した木村建設機業(東)は昨年10月、北電側とプラント設置費用を負担する方針を決定。2か月にわたる交渉を経て、具体的な工事はまだ行われていない。増強の設計を担う内最大手は成長。参入前に約90人だった従業員は約100人に増えた。土佐明建設は「プラントにも多くの人手がいる」と話す。

増設は「送電容量」が壁
帯広市の畜産農家は19日、川西バイオマスプラント建設計画を18日に決定したが、北電との交渉が進展しない。北電側は「送電網の増強計画が進んでいない」と話す。

帯広市の畜産農家は19日、川西バイオマスプラント建設計画を18日に決定したが、北電との交渉が進展しない。北電側は「送電網の増強計画が進んでいない」と話す。

保守対決、空転、コンサート…見守り69年
道議会議場が50周年を迎える。1951年から使われていた道議会議場が、新庁舎の完成に伴い12日、奉告期間の満了を迎え、全国から注目された。議事事務局に30人が目まぐるしく変化中。北海道の道議会議場は「道政の中心地」の99年間を振り返る。

道議会議場が50周年を迎える。1951年から使われていた道議会議場が、新庁舎の完成に伴い12日、奉告期間の満了を迎え、全国から注目された。議事事務局に30人が目まぐるしく変化中。北海道の道議会議場は「道政の中心地」の99年間を振り返る。

待てど走れど タクシー苦境

歩合制月収半減
道内減車・休業も
タクシー業界は新型コロナウイルスの影響で苦境を辿っている。歩合制の月収が半減し、道内では減車や休業も相次いでいる。

466億円・アベノマスク寄贈のワケ

「流通回復」「小さすぎ」
アベノマスクの寄贈が完了したが、流通が回復せず、マスクが小さすぎるとの指摘がある。